

ほしい情報届いていますかー広報紙は毎月1日・15日に発行



▲いつも走っている道での事故が多発 (川西警察署提供)

ストップ・ザ・交通事故

～人も車も自転車も
正しいルール守ります～

秋の交通安全運動 9月21日～30日

九月二十一日から同月三十日まで秋の全国交通安全運動が実施されます。「高齢者の交通事故防止」「安全速度の励行」「シートベルト着用」の徹底を運動の重点に、安全で快適な交通社会の実現を図ります。「人ひとりが安全な交通行動を実践し、互いに気をつけ爽やかな秋を楽しみましょう」

町内の事故は

町内の交通事故件数、死傷者数は、平成七年度、八年度と増加しています。主な原因としては、わき見運転やスピードの出過ぎな

どです。そして、シートベルトを締めていないために、死亡事故につながるものが多くあります。**なぜシートベルト?**

もちろん、同乗するときも必ず、シートベルトを締め、安全運転を心がけましょう。**高齢者の交通事故防止**

六十五歳以上の高齢者が、二〇一五年には四人に一人になるといふ、かつてない高齢者社会を迎えています。それに伴い、高齢者の交通事故も増加し、毎年大勢の人が、いつもの道で死傷しています。高齢者ドライバーの事故には、次のような五つの特徴があります。

- 見落とし・発見遅れによる事故が多い
- 一時不停止などによる出合頭の事故が多い
- 漫然運転による追突事故が多い
- 右折時の事故が多い
- 運転開始後、間もなくの事故が多い
- 高齢者自身はもちろん、家族もドライバーもみんなが交通安全の知識と意識の向上を図り、交通事故の防止に努めましょう。

地域交通安全活動推進協議会

同協議会では、県公安委員会の委嘱を受けた委員が月二、三回主要駅周辺の不法駐車への啓発など、地域の交通安全街頭活動並びに巡回指導に当たっています。ひとつ間違えれば大きな事故につながる迷惑駐車や追放など、安全で快適な車社会をめざして、これからも取り組みます。

川西警察署管内の委員は次の二十四人(本町からは七人)です。

- 四谷勲、細川己八郎、西田秀夫、西山勝、金南英司、東尾三郎、大野百合、小北修、横山道雄、大西勝美、中島一郎、小村知也、若松勝、岡本真司、井上隆夫、上田政夫、中原保行、福西昭夫、吉川進、木村治久、仲森成夫、



▲違法駐車のない日生中央駅前

いながわ交通安全フェスタ'97

とき 9月28日(日)
午前10時～午後3時(雨天決行)
ところ 大陽猪名川自動車学校



▲昨年の同フェスタのようす

- #### 当日のプログラム
- 二輪車(ミニバイク)安全運転指導
ベストライダーになるために
 - 高齢者運転実技指導
高齢者ドライバーに安全運転の再チェック
 - 車両運行事前整備指導
運転前の点検が事故を未然に防ぎます
 - 安全運転適性検査
自分の性格や能力を自覚しましょう
 - 白バイとの記念撮影
白バイに乗った子どもの写真をプレゼント
 - その他
大道芸、野菜市など
問い合わせは、住民課(☎66-8700)へ

道路を渡る時は、見通しのよいところで道路の左右をよく見渡し、安全を確かめてから渡りましょう。

■待つ
・車との距離やその速度を正確に判断することは、とても難しいことです。また、歩行速度は、加齢とともに衰えますので「まだ間に合うだろう」という判断で渡るのには危険です。

■確かめる
・いつも通り慣れている信号のない交差点でも、油断せず、必ず一度止まって自分の目で安全を確認しましょう。

・歩行者事故の大半は、自宅から五百メートル以内の近くの道路で発生しています。

子どもを守る110番の家(店)

川西警察署では、子どもが被害にあう事件・事故が増加していることから、地域の安全確保を図るために緊急避難場所として、「子どもを守る110番の家(店)」を設置しました。

「子どもを守る110番の家(店)」は、小中学校の主な通学路にあたる家や店に設置され、表示プレート(写真)が道路から見やすい場所に掲出されます。

また、女性に対するストーカー犯罪も増加傾向にあることから、「女性を守る110番の家(店)」をコンビニエンスストアやガソリンスタンドを中心に設置し、同様に表示プレートを掲出します。

問い合わせは、同警察署(☎55-0110)へ。

子どもをまもる 110番のおうち



いながわ特派員

とびっきり報告

人生八十年時代となり、会社を定年退職しても元気、まだまだ働きたいシルバーの方々も多くなります。昨年四月に設立された町シルバー人材センターは、地域に役立ち、そして、健康や生きがいのために働ける場をサポートしています。今回は、同センターでお話を伺い、そして、生き生きと働いている会員の方々取材しました。

第二の仕事

生きがいに

今日の仕事は、パークタウンのお宅での植木のせん定です。朝七時半から作業されている田村要さん（若葉・六十八歳）と今北憲さん（伏見台・六十四歳）にお話を伺いました。

おじやましたときには「もう充分いい汗かかっています」といった表情のお二人は、定年退職をしてしばらくは登山に行ったり、ゴルフをしたりと趣味にいそいそやりましたが、元気なうちにはやはり働きたいと、このシルバー人材セン

みんな元気で、輝いています

シルバー人材センターってなあに？



松のせん定なら僕たちにお任せ。手作業でいねいに。左が今北さん、下が田村さん



ターに登録したようです。会社勤めのころは、事務職や管理職で、植木とは全く無関係でしたが、緑は好きだったので登録

をきっかけに、独学で植木を勉強してきました。でも実際、この仕事は「習うより慣れる」で教をこなしことが大切なのです。植木のせん定は、比較的需要が多いことでもあって、この第二の仕事が生きがいになってきています。顔に汗して働くことは、健康のためにはこの上なく良いことで、生活のリズムも家にじっとしていると比べてよくなる快調です。

また、仕事の途中で仲間と一緒に愛弁当を食べることも楽しみの一つです。この仕事をするようになって、今まで知らなかったシルバーの友達がたくさんでき、仕事で帰った先での家族とのふれあいも増えました。お金よりも何よりもいい汗をかいて健康でいられます。今お家に居られる方も、一緒に仲間に入りませんか。定年後の人生はこれからです。町の活性化のためにも役立つ仕事をしましょう。

定年だからと

あきらめないで



シルバー人材センター局長 門野六郎さん

Q シルバー人材センターとは？
A 高齢者にふさわしい仕事を企業、官公庁、一般家庭から請負または委託により受注し、会員の能力や希望などに応じて、仕事を提供しています。

Q 主な仕事の内容は？
A 知識、経験を生かして様々な職種があります。例えば、専門技術分野（家庭教師、経理事務など）から一般事務（毛筆など）や屋内外の一般作業（公園清掃、樹木消毒・除草・草刈りなど）そして技能（木工・植木の手入れ・運転手など）、福祉・家事サービスなど、以上の職種以外でも技能をお持ちの方はセンターへ相談ください。

Q 活動状況は？
A 過去一年の間の活動実績は、受託件数三百三十四件、就業延べ人員二千九百二十五人です。

Q 会員の年代と人数は？
A だいたい六十歳から八十歳代まで、男女あわせて百三十人くらいです。

Q 会員になるには？
A おおむね六十歳以上で働く意欲のある人なら、センターに入会申込書に記入し提出すれば会員になれます。詳しい内容はセンターに問い合わせください。

Q 利用するには？（仕事を頼むには？）
A 電話で申込みください。そして、見積もりをさせていただきます。契約を締結します。センターで請け負った仕事は、会員が細心の気配りと真心で、確実な仕事をします。ぜひ会員にふさわしい仕事があれば、問い合わせください。

Q これからの展望は？
A 設立して二年目となり、会員の人数の確保と、幅広く高い技能と技術の仕事内容の充実を目指すよう努力しています。そして、今後の高齢化を見据え、生きがいづくりを目的に、みなさんの理解のもとに、もっと規模を大きくし、フル回転できるようにしていきたいと思っております。

編集後記

つい先日までバリバリ働いていた人が定年になって、何もかも家でいるようになって、急に老け込んだり元気がなくなったりすると聞きます。しかし、今回、まだまだシルバーとは言えない若々しいお二人の生き生きとした働き振りに脱帽しました。これからもすっくと健康で輝いて、現役という気持ちで働いてほしいと思いました。さあ、家に閉じこもらないで、まずはシルバー人材センターに行ってみてください。きっと今までと違う生き方が見えてくるかもしれません。

仕事の流れ



今回のテーマは「お月見」
お月見や だんごのかわりに ハンパ
ガー
長田 勲逸（紫合）
敬老の 日柄よろし 芋之月
古澤 福太郎（伏見台）
月見より だんごのほうが 気になりて
三輪 花江（伏見台）
来月のテーマは「紅葉狩り」です。
応募方法は、九月二十五日までにハガ
キで町長公室広報広聴係へ

シルバー人材センター
問い合わせは
☎ 66-8686
(社会福祉会館内)